

第4章 第2次飯塚市地域公共交通網形成計画における目標達成のための取り組み

1 施策の実施状況

第2次計画の目標を達成するための取り組みの実施状況について整理しました。

目標1 総合的かつ持続安定的な公共交通体系の構築

施策①	公共交通モニタリング
施策内容	鉄道、バス、コミュニティ交通の利用状況をモニタリングし、利便性の向上、満足度、運行上の課題や要望を把握します。 交通事業者に対し、モニタリング結果に基づく運行改善などをスムーズに進めます。
実施状況	公共交通の利用状況のモニタリング調査を必要に応じて実施し、飯塚市地域公共交通協議会において結果を活用した協議を行うなど、次年度の運行計画の改善に資している。
評価	施策は実施できている。
今後の対応	継続実施

施策②	地域懇談会の開催
施策内容	地域の実情やニーズに合った効率的な公共交通について、既存路線の維持方策の検討や地域運行型の交通の導入を行い、協働のまちづくりを促進するため、5年間で6地区の地域懇談会を開催します。
実施状況	コミュニティ交通体系再編に伴い、各地区のまちづくり協議会や自治会長会の会合に出席し、地区に応じたコミュニティ交通のあり方について意見交換を実施した。また、一般市民向けの住民説明会を全12地区で各2回開催し、住民の意見・要望等の聴取を実施した。
評価	施策は実施できている。
今後の対応	継続実施

施策③	コミュニティバスの効果的・効率的な運行
施策内容	民間バス、コミュニティバス、地域運行型交通システムの運行状況を整理し、適切な役割分担を行い、連携を図ることで、効果的・効率的な運行を目指します。
実施状況	毎年度、コミュニティバスの運行計画の改善を行い、効果的・効率的な運行を図っている。また、令和4年度からは、民間バスとの役割分担を考慮した路線の再編成を行って、効果的・効率的な運行を図っている。
評価	施策は実施できている。
今後の対応	継続実施

施策④	交通結節点の設置
施策内容	鉄道と民間バス及びコミュニティ交通が接続するところには、商業機能や医療施設、公共施設などが集積し、地域生活の拠点が形成されています。鉄道、民間バス、自転車、自動車などの乗り継ぎ、乗り換えをしやすくする交通結節点の設置を図ります。
実施状況	コミュニティ交通体系再編に伴い、各地区のバス停または鉄道駅、及び、それらに近接する地区拠点等の施設であって、ある程度の利用者数が見込まれ、乗継の利便性が確保されている地点を「交通結節点」として位置づけ、運行ダイヤの調整を行うなど、結節点での乗り継ぎ等の連携を図っている。
評価	施策は実施できている。
今後の対応	継続実施

施策⑤	交通結節点での利用環境改善の検討
施策内容	鉄道・民間バス路線及びコミュニティ交通の適切な役割分担と連携により、交通結節点を拠点に、効率的で使いやすい公共交通を形成し、利便性向上を図ります。加えて交通結節点となる鉄道駅や拠点バス停において、駐車場、駐輪場、待合所などを整備し、機能向上を図ります。またコンビニエンスストアとの連携などの可能性を検討し、利用者数の増加を図ります。
実施状況	公共交通機関の運行ルート上の集約施設等の待機設備（ベンチ）等の一部にとどまっている。
評価	交通結節点や集客施設等の待機環境については、対応が行き届いていないところがあり、待機環境向上が必要な施設等での対応が求められる。
今後の対応	民間集客施設管理者との協議・調整を行うなどして、交通結節点等の待機環境向上に取り組む。

施策⑥	店舗送迎専用シャトルバスと既存公共交通の効果的・効率的な運行の検討
施策内容	大型小売店舗が運行する送迎専用バスと既存の公共交通が、適切な役割分担のもとに、より効果的・効率的な運行となるよう、検討及び調整を図ります。
実施状況	当該シャトルバスを運行している店舗の関係者と情報交換等を行った。コミュニティ交通においては、当該シャトルバスの運行を考慮した運行計画の策定等（運行ルートやダイヤの重複回避等）を行っている。
評価	施策は実施できている。
今後の対応	継続実施

目標2 移住・定住の促進と暮らしやすさを確保するための公共交通体系の構築

施策⑦	通勤・通学の利便性向上に向けてJR福北ゆたか線の段階的複線化の検討
施策内容	福北ゆたか線については、一部複線化されているものの、篠栗線は全線単線であり、列車の本数や所要時間など不便な面があります。移住・定住の促進に向け飯塚市と福岡都市圏との通勤・通学の利便性向上の観点からも、JR福北ゆたか線の複線化の実現に向けた検討を行います。
実施状況	JR九州篠栗線・筑豊本線整備連絡協議会を通じて、九州旅客鉄道株式会社に対する要望活動を継続して実施している。
評価	施策は実施できている。
今後の対応	継続実施

施策⑧	福岡空港への利便性向上に向けてJR篠栗線と地下鉄福岡空港線の接続検討
施策内容	JR篠栗線へ福岡市営地下鉄空港線を延伸させることにより、飯塚市から福岡空港並びに博多・天神地区へのアクセスが便利になります。このことは、沿線自治体の活性化、交流人口の増加、筑豊地域全体の経済の活性化につながることを期待できます。その実現に向け、沿線自治体や関係機関と連携し、取り組みを進めていきます。
実施状況	令和3年2月に「福岡市地下鉄福岡空港駅・JR九州長者原駅接続促進期成会」を2市9町で設立。令和3年度には福岡県において地下鉄接続基礎調査の委託業者が決定し、その調査に係る資料提供の協力依頼で、福岡市交通局及びJR九州と調整を行った。また、調査に係る期成会との協議を予定しており、福岡県交通政策課との調整を進めている。
評価	施策は実施できている。
今後の対応	継続実施

施策⑨	高速バスの確実な運行の確保に向けて八木山バイパス4車線化の検討
施策内容	八木山バイパスは平成26年10月に無料化され、通行量が増加しています。そのため、交通渋滞は慢性化し、加えて対面通行のため、事故が発生した場合には、長時間の通行止めが起きているのが現状であり、高速バスの確実な運行を確保するため、また移住・定住の促進と暮らしやすさを確保し、筑豊地域全体の経済の活性化を図るため、八木山バイパスの4車線化の実現に向けて検討していきます。
実施状況	平成31年3月の国土交通省における事業化決定を受け、4車線化に向けた工事を令和2年度より着手している。（篠栗IC～筑穂IC間は令和6年度、筑穂IC～穂波東IC間は令和11年度に開通予定）。また、令和3年度には筑豊横断道路建設促進期成会を通して、道路管理者（国）、福岡県並びに国土交通省、財務省及び地元選出国會議員に対し、早期完成、建設促進に向けた要望活動を実施した。
評価	施策は実施できている。
今後の対応	継続実施

目標3 地域づくり、まちづくり活動の活性化に寄与する公共交通体系の構築

施策⑩	各地区のイベントに活用できる公共交通体系の構築
施策内容	地域の市内各地で開催されるイベントに気軽に参加することができ、人の流れをつくり、にぎわいが生まれるよう、地域間の移動を円滑にできる公共交通ネットワークを構築します。
実施状況	平日においてはデマンド型の予約乗合タクシーの運行を継続し、イベント等が開催される土曜日にはエリアワゴンを運行することにより、地区内外のイベント等の活動により参加しやすい交通体系を構築している。
評価	施策は実施できている。
今後の対応	継続実施

目標4 高齢者等交通弱者が安心して暮らせる公共交通体系の構築

施策⑪	予約乗合タクシーの運行
施策内容	交通空白地域の居住者や高齢者などの生活交通弱者が、買物や通院等の日常生活に必要な移動を行えるように、予約乗合タクシーを運行します。
実施状況	颯田・鯉田、幸袋、二瀬、鎮西、飯塚東、庄内、穂波、筑穂の8地区で予約乗合タクシーを運行している。
評価	施策は実施できている。
今後の対応	継続実施

施策⑫	まちづくり協議会を主体とした地域に根差したコミュニティ交通の導入
施策内容	地域住民との協議を行い、地域の実情やニーズにあった地域運行型交通システムを導入し、誰もが移動手段として気軽に利用でき、外出参加（社会参加）を促進する環境を整えます。
実施状況	令和3年度までは鯉田、飯塚東、幸袋、穂波、筑穂、庄内、颯田の7地区において、まちづくり協議会による買物ワゴンを運行した。令和4年度からは、この運行事業を「エリアワゴン」として継承している。その事業運営は行政が担い、住民ニーズを反映した運行計画策定や改善等をまちづくり協議会と協働で行っている。なお、運行日や実施地区を増加（二瀬地区、鎮西地区及び菰田地区の3地区を追加した10地区）するなどして事業を拡充している。
評価	施策は実施できている。
今後の対応	継続実施

施策⑬	JR駅のバリアフリー化推進
施策内容	少子高齢化社会に対応するため、誰もが地域公共交通を利用しやすい環境の形成に向けて、JR駅のバリアフリー化を推進します。
実施状況	JR筑前大分駅において、正面入口前の階段の手すり新設と駅舎へ続くスロープ新設工事を実施した。 また、JR新飯塚駅において、ホームの点字ブロック内方線改修を実施した。
評価	施策は実施できている。
今後の対応	継続実施

目標5 近隣自治体との連携による効果的・効率的な公共交通体系の構築

施策⑭	嘉麻市、桂川町との連携による公共交通体系の検討
施策内容	広域的な移動を確保し、効果的・効率的で持続可能な公共交通ネットワークを構築するため、近隣市町（嘉麻市・桂川町）と連携して広域コミュニティ交通の体系構築に向けた実施計画の策定を検討します。
実施状況	「嘉飯圏域定住自立圏形成推進会議」の「地域公共交通部会」において、西鉄バス路線（碓井線）の維持・利用促進並びに各自治体のコミュニティバス等との連携について、2市1町の公共交通担当職員間で情報共有や協議等を行った。
評価	施策は実施できている。
今後の対応	継続実施

施策⑮	嘉飯圏域の高校生の通学を支援するバス路線維持の検討
施策内容	公共交通を利用した周辺市町の高等学校等への通学手段の確保のため、近隣市町（嘉麻市・桂川町）と連携し、通学に必要な時間帯のバス路線維持に向けて検討を行います。
実施状況	嘉穂高等学校、嘉穂東高等学校、嘉穂総合高等学校、稲築志耕館高等学校の1年生を対象としたアンケート調査を実施して、通学状況の把握等を行った。民間路線バスが一部廃止になった地区では、路線ワゴンによる代替運行を実施している。 広域運行路線は近隣自治体と共に、本市単独路線は本市単独で路線維持経費の欠損補填を行って、市内ローカル線全路線の確保維持に努めている（市内のローカル線全線に対し赤字補填を実施）。
評価	施策は実施できている。
今後の対応	継続実施

目標6 健幸都市づくりにつながる公共交通体系の構築

施策⑯	公共交通とウォーキングコースとの連絡
施策内容	人と人とのつながりが健康に寄与すると考えられるため、公共交通とウォーキングコースを結び付け、気軽に外出できる環境を整えます。
実施状況	デマンド型運行の予約乗合タクシーの運行を継続することにより、レジャー目的の多様なニーズにも対応可能な輸送を実施している。
評価	施策は実施できている。
今後の対応	継続実施

施策⑰	公共交通利用に対する支援（利用方法説明会の開催等）
施策内容	公共交通の利用は徒歩での移動を伴うため、高齢者の外出促進、健康づくりにもつながります。民間バス路線・コミュニティバスの利用者は伸び悩んでいることから、公共交通の利用の仕方がわからないといった意見に対応するため、利用方法説明会の年5回開催を目標とし、利用促進を図ります。
実施状況	「みんなの健幸・福祉のつどい」の会場に公共交通コーナーを設け、来場者に対して公共交通機関の利用促進を呼びかけるとともに、コミュニティ交通の利用に関する相談受付及び説明等を行った。 市報に公共交通の特集記事を掲載し、公共交通機関の利用促進を広く市民に対し呼びかけを行った。
評価	施策は実施できているが、さらなる周知広報活動が求められている。
今後の対応	当該施策を継続実施しつつ、いきいきサロンや自治会等における説明会開催等の活動を拡充するなどして、市民認知度を向上させる必要がある。

2 数値目標の達成状況

第2次計画において設定されている数値目標の達成度について整理しました。

▼目標達成指標1：公共交通利用者数

目標達成指標	数値目標	令和3年度 実績値	状況
鉄道乗客数	2,786千人	—	平成29年度以降の利用者数は、JR九州管内上位300位以内及び100人以上の駅のみ公表となっており、利用者数不明の駅があるため実績値は不明。
民間路線バス 利用者数	6,842千人	3,558千人	路線バス事業の縮小（路線廃止、便数減少など）やコロナ禍の人流減少の影響を大きく受けて、目標までには至っていない。
コミュニティ 交通利用者数	100,000人	83,921人	コミュニティ交通の全体の利用者数は、年々増加していたが、コロナ禍の人流減少の影響を大きく受けて、目標までには至っていない。ただし、令和4年度においては、コミュニティ交通が新体系での運行が始まったことにより、利用者数は数値目標の100,000人程度になるものと推測している。

▼目標達成指標2：高校生通学時のバス利用率

目標達成指標	数値目標	実績値	状況
高校生通学時の バス利用率	19.0%	22.7%	利用率の向上がみられる。

※R3年度高校生アンケートより

▼目標達成指標3：コミュニティ交通の利用者1人あたり平均経費

目標達成指標	数値目標	令和3年度 実績値	状況
コミュニティ交通 の利用者1人あ たり平均経費	1,100円	1,428円	コロナ禍の利用者減少に伴い、経費が増加している。なお、令和4年度から路線再編を行い、効率化を図っている。

▼目標達成指標4：交通結節点の設置箇所数

目標達成指標	数値目標	実績値	状況
交通結節点の 設置箇所数	12箇所	16箇所	令和4年度から新たなコミュニティ交通体系での運行において、交通結節点の設定・調整を図っている。

※R3.12.20協議会資料より